

# 調査の概要

## 1 調査目的

本調査は県民の価値観や行動志向、行政への評価・要望など、県民生活の基本的な意識の経年変化を大きな潮流として捉えることにより、政策形成、施策運営の基礎資料を得ることを目的としている。

今回は、年次テーマを「県民の暮らしぶり」と地域に対する思い」とした。県民目線に立った課題対応型の県政を推進する基礎資料とするため、県民の生活実感やその暮らし、地域との関わり方などの意識や現状について調査した。

## 2 調査設計

- (1) 調査地域 兵庫県全域
- (2) 調査対象 県内に居住する満20歳以上の男女個人
- (3) 標本数 5,000人
- (4) 調査方法 郵送法（ハガキによる督促1回）
- (5) 調査時期 平成20年10月15日～10月31日
- (6) 県民意識調査委員会

設問作成にあたり、県民意識調査委員会を設置して、下記の学識経験者から指導・助言を得た。

立木 茂雄 （同志社大学 教授）

鳥越 皓之 （早稲田大学 教授）

中川 聡史 （神戸大学大学院 経済学研究科 准教授）

吉田 三千代 （(株)サンケイリビング新聞社 情報企画部長）

[五十音順]

## 3 回収結果

回収数 2,811件（56.2%）

地域	標本数	回収数	回収率	無効票	有効回答
神戸	500	259	51.8%	5	254
阪神南	500	234	46.8%	2	232
阪神北	500	271	54.2%	7	264
東播磨	500	280	56.0%	1	279
北播磨	500	281	56.2%	6	275
中播磨	500	267	53.4%	9	258
西播磨	500	301	60.2%	6	295
但馬	500	325	65.0%	6	319
丹波	500	302	60.4%	8	294
淡路	500	291	58.2%	2	289
地域不明	-	0	-	0	0
全県	5000	2,811	56.2%	52	2,759

無効票は地域不明、集計後到着など

#### 4 標本抽出および集計方法

- (1) 母集団 住民基本台帳（H20.3.31）に記載された県民数に、外国人登録者数から推計した外国人県民（成人）数を加えたものを母集団とした。
- (2) 標本配分 地域ごとに500の標本数を都市規模別母集団構成比に応じて配分（合計5000人）した。  
なお、外国人県民については、市区町ごとに、母集団（日本人+外国人県民）における外国人県民比率を計算し、各市区町の合計標本数（日本人+外国人県民）に、外国人県民比率を乗じ、外国人標本数を算出した。
- (3) 抽出方法 層化無作為抽出法
  - ・住民基本台帳（H20.3.31）に記載された県民数を母集団数とし、10の地域毎に500の標本数を市町別・男女別・年齢10歳階級別の母集団構成比に応じて配分した。
  - ・各地点における対象者の抽出は、住民基本台帳（一部の市町は選挙人名簿）から等間隔抽出法で抽出した。
  - ・外国人県民については、市区町ごとに外国人録名簿等から無作為抽出した。
- (4) 集計方法 地域ごとの回収数について、全県内の母集団構成比を復元するよう重み付け集計をした。

#### 地域区分



県民局	該当市町
神戸	神戸市
阪神南	尼崎市、西宮市、芦屋市
阪神北	伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、猪名川町
東播磨	明石市、加古川市、高砂市、稲美町、播磨町
北播磨	西脇市、三木市、小野市、加西市、加東市、多可町
中播磨	姫路市、神河町、市川町、福崎町
西播磨	相生市、たつの市、赤穂市、宍粟市、太子町、上郡町、佐用町
但馬	豊岡市、養父市、朝来市、香美町、新温泉町
丹波	篠山市、丹波市
淡路	洲本市、南あわじ市、淡路市

## 5 回答者のプロフィール

### 性 別 (%)

	男性	女性	不明
全県	43.2	56.6	0.2
神戸	40.6	59.1	0.4
阪神南	44.0	56.0	0.0
阪神北	43.2	56.8	0.0
東播磨	46.6	53.4	0.0
北播磨	45.1	54.5	0.4
中播磨	43.8	56.2	0.0
西播磨	42.7	56.6	0.7
但馬	44.5	55.5	0.0
丹波	42.2	57.5	0.3
淡路	42.6	56.7	0.7

### 年 齢 (%)

	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳
全県	4.8	5.2	6.6	9.5	6.4	7.4	8.6
神戸	6.3	5.5	2.8	8.7	5.5	7.9	9.1
阪神南	4.7	6.0	8.6	10.8	8.2	6.9	8.2
阪神北	3.8	2.7	8.0	12.1	6.1	7.2	6.1
東播磨	4.3	5.7	8.6	9.0	7.5	8.6	10.0
北播磨	5.1	4.0	8.0	8.4	6.5	6.2	10.5
中播磨	4.3	6.6	8.5	9.7	5.0	7.4	10.1
西播磨	5.1	5.4	7.8	7.8	8.8	5.8	8.1
但馬	1.3	5.3	3.4	8.8	3.8	9.1	6.3
丹波	4.8	2.4	7.5	6.1	5.4	6.5	7.8
淡路	2.1	4.8	5.9	7.3	4.5	6.9	6.6

	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上	不明
全県	11.1	11.0	10.1	8.5	5.3	5.3	0.2
神戸	11.0	11.0	11.8	10.2	5.1	4.7	0.4
阪神南	10.3	11.2	8.2	9.1	3.4	4.3	0.0
阪神北	12.5	9.5	12.1	6.4	6.4	6.8	0.4
東播磨	10.0	12.2	9.3	6.1	5.0	3.6	0.0
北播磨	10.2	12.0	9.5	8.4	5.8	5.5	0.0
中播磨	10.9	12.0	8.9	7.4	5.8	3.5	0.0
西播磨	9.8	10.8	9.5	8.1	4.1	8.5	0.3
但馬	15.0	8.5	9.4	10.0	9.4	9.4	0.3
丹波	13.3	10.9	6.1	11.2	9.2	8.5	0.3
淡路	13.8	10.0	10.0	9.0	8.0	10.4	0.7

年 齢〔再 掲〕 (%)

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	不明
全県	10.0	16.0	13.9	19.7	21.1	13.8	5.3	0.2
神戸	11.8	11.4	13.4	20.1	22.8	15.4	4.7	0.4
阪神南	10.8	19.4	15.1	18.5	19.4	12.5	4.3	0.0
阪神北	6.4	20.1	13.3	18.6	21.6	12.9	6.8	0.4
東播磨	10.0	17.6	16.1	20.1	21.5	11.1	3.6	0.0
北播磨	9.1	16.4	12.7	20.7	21.5	14.2	5.5	0.0
中播磨	10.9	18.2	12.4	20.9	20.9	13.2	3.5	0.0
西播磨	10.5	15.6	14.6	18.0	20.3	12.2	8.5	0.3
但馬	6.6	12.2	12.9	21.3	17.9	19.4	9.4	0.3
丹波	7.1	13.6	11.9	21.1	17.0	20.4	8.5	0.3
淡路	6.9	13.1	11.4	20.4	20.1	17.0	10.4	0.7

職 業 (%)

	職業別									
	自営業	正規社員 (職員)	会社等の 役員	契約・ 派遣社員	ハ <sup>○</sup> ・ アルバイト	NPO等の スタッフ	主婦 (主夫)	学生	その他 無職	不明
全県	10.9	25.2	3.1	5.9	15.3	0.7	17.3	2.1	17.0	2.5
神戸	9.4	22.0	3.9	5.1	18.5	0.8	19.7	2.0	15.7	2.8
阪神南	12.1	23.3	2.6	6.5	15.5	1.3	16.8	3.9	15.1	3.0
阪神北	11.4	23.5	3.0	8.3	10.2	0.4	14.8	1.1	23.5	3.8
東播磨	3.2	33.0	3.2	5.0	15.1	0.7	22.9	2.2	13.3	1.4
北播磨	12.7	31.6	2.2	5.5	16.4	1.1	10.5	1.8	15.3	2.9
中播磨	9.7	28.3	2.3	7.0	15.9	0.0	16.3	1.2	18.2	1.2
西播磨	14.6	23.1	4.1	4.7	9.5	0.7	15.3	2.4	24.7	1.0
但馬	20.4	24.1	3.8	5.3	13.8	0.6	13.5	0.9	12.5	5.0
丹波	18.4	26.2	1.4	4.1	11.9	0.0	15.0	2.7	18.7	1.7
淡路	26.3	22.5	1.7	3.1	15.9	0.0	8.7	0.3	20.1	1.4

世帯構成 (%)

	1人世帯	夫婦だけ (1世代)	親と子ども (2世代)	親と子と孫 (3世代)	その他	不明
全県	7.3	24.3	54.2	11.7	2.1	0.4
神戸	9.1	28.3	54.7	5.9	1.6	0.4
阪神南	9.9	25.9	53.9	6.0	3.9	0.4
阪神北	8.3	23.5	51.9	14.0	2.3	0.0
東播磨	6.5	26.5	58.8	6.5	1.8	0.0
北播磨	4.0	13.1	54.2	27.6	0.7	0.4
中播磨	3.1	20.2	59.3	15.9	1.2	0.4
西播磨	2.0	18.6	51.9	24.4	1.4	1.7
但馬	2.8	17.2	48.6	27.9	2.5	0.9
丹波	7.5	22.8	42.5	25.5	1.7	0.0
淡路	9.0	22.5	42.9	21.1	3.5	1.0

家族構成 (%)

	乳児	幼児	小学生	中学生	高校生	大学(院)生	65歳以上の 人	該当者なし	不明
全県	2.3	10.7	12.1	8.1	8.9	9.7	47.0	27.3	0.3
神戸	1.6	7.1	9.4	7.1	7.9	8.7	47.2	28.0	0.0
阪神南	2.2	11.2	8.6	6.5	8.2	10.3	37.1	34.1	0.4
阪神北	4.2	9.5	11.4	9.5	7.6	12.9	47.0	25.0	0.4
東播磨	2.5	11.1	11.5	7.2	8.6	10.4	36.2	33.7	0.4
北播磨	2.9	12.0	18.2	13.8	13.8	9.5	59.3	20.0	0.0
中播磨	0.8	16.7	18.6	7.8	10.1	9.3	50.4	22.5	0.4
西播磨	3.1	14.2	18.0	8.8	8.8	7.5	55.3	23.7	1.4
但馬	3.1	12.9	17.6	10.7	12.5	7.2	69.6	16.0	0.0
丹波	2.4	11.6	14.6	11.6	12.9	8.2	67.0	18.4	0.0
淡路	2.4	12.8	14.9	9.7	11.1	7.6	67.1	17.0	0.3

居住年数 (%)

	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上5 年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上	不明
全県	3.3	7.6	6.4	14.2	14.9	7.0	44.3	2.4
神戸	3.9	6.7	5.9	15.0	20.1	7.5	38.2	2.8
阪神南	2.6	12.5	9.5	17.7	15.1	6.9	32.8	3.0
阪神北	4.2	6.8	8.3	19.3	13.3	9.5	34.8	3.8
東播磨	3.9	7.9	6.8	14.7	15.4	6.8	43.4	1.1
北播磨	2.2	6.5	4.0	7.3	10.2	8.0	60.0	1.8
中播磨	3.1	5.4	5.0	10.9	12.8	3.9	57.8	1.2
西播磨	1.7	5.8	3.1	7.8	8.1	4.4	67.8	1.4
但馬	1.6	3.1	2.5	6.6	8.8	5.6	67.7	4.1
丹波	1.4	5.8	2.0	8.8	7.5	5.8	67.3	1.4
淡路	2.8	6.2	2.8	6.9	8.3	7.6	64.4	1.0

未既婚 (%)

	既婚 (配偶者あり)	既婚 (離別・死別)	未婚	不明
全県	73.7	11.3	14.6	0.4
神戸	72.4	13.4	13.8	0.4
阪神南	69.0	10.3	20.3	0.4
阪神北	75.8	11.4	12.9	0.0
東播磨	74.2	10.4	14.7	0.7
北播磨	75.6	9.1	14.5	0.7
中播磨	77.5	9.7	12.8	0.0
西播磨	77.6	6.8	14.6	1.0
但馬	78.1	14.1	7.2	0.6
丹波	75.2	11.6	12.6	0.7
淡路	74.7	14.2	10.4	0.7

## 6 標本誤差

世論調査で無作為抽出法をとった場合は、数学的に標本誤差を計算することが可能であり、誤差の幅はサンプル数と得られた結果の比率などによって異なる。

今回の調査のサンプル数についての標本誤差の幅は、以下のとおりである。

誤差の算出式

(層化抽出、信頼度 95%の場合)

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \cdot \frac{P(100 - P)}{n}}$$

\* N : 母集団 n : 回答者総数 P : 回答比率 (%)

例：サンプル数 2,759の場合

回答比率 (%)	10% (または90%)	20% (または80%)	30% (または70%)	40% (または60%)	50%
誤差(%)	±1.14	±1.52	±1.74	±1.87	±1.90

## 調査結果のまとめ

### 1 生活の向上感について

「向上している」(5.6%)と「同じようなもの」(48.8%)は、前年度(7.0%、60.9%)より減少し、「低下している」(42.6%)が前年度(29.7%)より12.9ポイント増加。

### 2 生活満足度について

生活全般での満足度について、『満足』(「満足」+「やや満足」38.8%)は、前年度(44.3%、過去最低)より5.5ポイント減少。『不満』(「不満」+「やや不満」36.5%)は、前年度(35.0%)より1.5ポイント増加し、「どちらともいえない」(23.1%)が、前年度(20.7%、過去最高)より2.4ポイント増加。

生活の個別側面での満足度について、『満足』は、「ケ 家族との関係」(75.9%)で4分の3と最も多く、「サ 住んでいる地域の住み心地」(58.0%)、「コ 知人や近所の人との関係」(57.8%)、「ウ 住居」(57.4%)、「ス 家族の健康」(55.5%)、「シ 自分の健康」(51.9%)が5割台で続く。

一方、『不満』は、「イ 貯蓄などの金融資産」(61.6%)で6割強と最も多く、「ア 所得・収入」(55.9%)が5割台、「カ 趣味やレクリエーションへの取組」(33.7%)、「オ 時間のゆとり」(32.3%)が3割台で続く。

今後の生活で重視したいことは、「ア 所得・収入」(62.6%)と「ス 家族の健康」(62.0%)が6割で挙げられ、「シ 自分の健康」(55.4%)が5割台半ば、「イ 貯蓄などの金融資産」(43.1%)が4割台で続く。一方、「エ 車、家具などの耐久消費財」(5.0%)と「キ 地域活動やボランティアへの取組」(6.3%)は1割未満である。

### 3 1日の時間配分

1日の時間配分について、「仕事や学業」の時間は、1時間未満(26.4%)が2割台半ばで最も多く、9～11時間(15.8%)、11～13時間(12.6%)が1割台で続く。

「育児や介護や家事」では、1時間未満(28.5%)と1～3時間(27.5%)が僅差で並び、これら2つの時間帯(56.0%)で半数を超える。

「自由時間」では、1～3時間(33.3%)が3分の1、3～5時間(26.0%)が4分の1を占め、これら2つの時間帯(59.3%)で約6割になる。

### 4 仕事に関する意識

仕事の目的で『(そう)思う』が最も多いのは、「ア お金を得るため」(79.7%)で8割近い。「イ 社会の一員としてのつとめ」(62.0%)では6割強、「ウ 自分の才能や能力を伸ばすため」(51.2%)と「エ 生きがいを見つけるため」(51.9%)では5割強である。一方、『(そうは)思わない』は4項目ともに1割前後に止まる。勤続年数は、2割台の1～5年未満(23.6%)を除き、いずれの年数も1割台で、勤続年数10年未満(50.0%)と10年以上(49.2%)で二分されている。

現在の仕事の継続意向は、『(現在の仕事を続けたい)と思う』(66.4%)が6割を超え、『思わない』(14.7%)は1割台である。

仕事に関する意識や状況について、『(そう)思う』は、「ア 充実感がある」(50.8%)で5割と最も多く、「エ 派遣社員等の増加」(47.7%)、「ウ 家庭生活との両立」(46.2%)で4割台後半、「カ 人間関係の希薄化」(33.9%)、「オ 給与格差の拡大」(33.7%)、「イ 給与・賃金が適正」(31.4%)で3割台である。一方、『(そうは)思わない』は、「イ 給与・賃金が適正」(43.4%)で4割を超えて最も多く、同項目のみ『思わない』が『思う』を上回っている。

## 5 現住地、住居形態、通算居住年数及び前居住地(通算5年未満の場合)

住居形態について、所有の別では、持ち家[戸建て](69.2%)が約7割を占め、持ち家[集合住宅](12.1%)と合わせると、持ち家(81.3%)が8割を越える。住宅種別では、戸建て(持ち家:69.2%、賃貸:3.0%、社宅:0.4% 計72.6%)が7割を越え、集合住宅(持ち家:12.1%、賃貸:11.0%、社宅:1.4% 計24.5%)が2割台半ばである。

現住地での居住年数について、20年以上(44.3%)が4割台と最も多く、10～15年(14.9%)、5～10年(14.2%)が1割台で続き、15年以上(51.3%)が半数を占める。

転居後5年未満の人の前居住地は、「現在と同じ市町内」(53.9%)が5割を超え、次いで「県内他市町」(24.6%)が約4分の1で、県内での移動が8割近く(78.5%)を占める。

## 6 居住継続意向と継続する理由

現住地での居住継続意向について、『住み続けたい』(68.2%)は7割近く、『移りたい』(10.6%)が1割である。

現住地に住み続けたい理由は、「日常生活で便利」(46.4%)が4割台で最も多く、「自然環境や街並みが優れる」(38.2%)、「生まれ育ったところ」(30.7%)、「仕事で便利」(30.5%)が3割台で続く。

## 7 居住地域の環境・資源の状況及び居住地域で重視すること

居住地域の環境・資源の状況について、『あてはまる』は、「キ 買い物が便利」(65.8%)と「カ 自然に親しめる」(65.7%)で6割を超え、「イ 公共交通機関が利用しやすい」(58.4%)が続く。一方、『あてはまらない』は、「ス 芸術や文化に触れられる」(39.1%)と「シ 健康・スポーツ施設が便利」(32.1%)で3割を超え、この2項目と「コ 障害者や高齢者が暮らしやすい」(29.0%)、「サ 子育て環境が充実している」(26.3%)の4項目では、『あてはまらない』が『あてはまる』(ス:19.7%、シ:27.2%、コ:21.5%、サ:19.7%)を上回っている。

居住地域での生活で重視したいことは、「エ 治安がよい」(56.6%)と「イ 公共交通機関が便利」(50.0%)が5割台で、「ケ 必要な医療サービスが受けられる」(46.7%)と「キ 買い物が便利」(43.8%)が4割台で続く。一方、「ウ 地域活動が盛ん」(5.5%)や「ス 芸術や文化に触れられる」(8.9%)は1割に満たない。

## 8 近所づきあい

いつもあいさつをする人の人数は、10人(19.4%)が約2割で最も多く、5人(16.4%)、3人(10.6%)と続き、『いる』人(78.5%)は8割近いが、「特にない」人(18.2%)も2割近くある。

立ち話をする人の数では、「特にない」(37.5%)が4割近く、『いる』人(59.3%)は約6割で、2人(14.5%)、3人(13.7%)、5人(11.7%)が1割を超えている。

おすそわけ等をする人の数でも、「特にない」(30.5%)が3割あり、『いる』人(66.6%)は3分の2で、2人(17.7%)、3人(15.8%)、1人(11.1%)、5人(10.5%)が1割を超えている。

居住地域の様子は、「少しつきあいがあり、あいさつもかわす」(46.5%)が4割台半ばで最も多く、「つきあいがあり、活動に多くの人に参加」(22.0%)と合わせると、地域でのつきあいが『ある』人(68.5%)は7割近い。

## 9 親・子世帯との関わり

親世帯又は子世帯との居住状況について、『同居』(33.7%)は3分の1で、『別居』(55.9%)が半数を超えるが、行くのに1時間以上かかる遠方に住んでいるのは1割台(16.9%)である。

親世帯又は子世帯への行き来の状況について、「年に数回」(25.4%)が4分の1と最も多いが、月1回程度までを合計(68.5%)すると7割近い。一方、「行き来はない」(2.5%)はわずかである。

## 10 将来の生活レベル

生活レベルの見通しについて、「どちらともいえない」(44.8%)が4割半ばと最も多く、次いで『悪くなる』(41.1%)が4割強で、『よくなる』(11.9%)は1割強に止まる。

## 11 震災に対する意識

『起こると思う』(45.1%)が『起こらないと思う』(30.7%)を14.4ポイント上回る。

『起こると思う』は前年度(47.8%)より減少し、『起こらないと思う』は前年度(28.0%、過去最低)より増加。

## 12 県政への意識

『関心がある』(65.2%)は前年度(72.0%)より6.8ポイント減少し、『関心がない』(32.6%、過去最高)は前年度(26.5%)より6.1ポイント増加。

県政への評価では、『やっている』との評価は、「震災からの復興対策」(49.8%)、「県政の広報・広聴活動」、「防災対策の充実」(ともに37.8%)、「交通網の整備」(37.0%)が上位。

『努力が必要』との評価は、「雇用安定と職業能力開発」(44.3%)、「医療施設の充実」(42.9%)、「福祉対策」(38.5%)、「中小企業の育成」(37.6%)が多い。

前年度と比較すると、『やっている』は「環境対策」など3項目で増加し、『努力が必要』は「防災対策の充実」など6項目で増加している。